

(講座) 臨床薬学  
(氏名) 小林 奨

(研究室) 薬物治療学  
(職名) 助教

### 【研究テーマ】

1. 抗結核薬の副作用調査及び遺伝子多型との相関解析に関する研究
2. 非小細胞肺癌治療薬ゲフィチニブの臨床効果と EGFR 遺伝子多形の相関関係に関する研究

### 【論文発表】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. Norihide Higuchi, Naoko Tahara, Katsunori Yanagihara, Kiyoyasu Fukushima, Naofumi Suyama, Yuichi Inoue, Yoshitsugu Miyazaki, Tsutomu Kobayashi, Koh-ichiro Yoshiura, Norio Niikawa, Chun-Yang Wen, Hajime Isomoto, Saburo Shikuwa, Katsuhisa Omagari, Yohei Mizuta, Shigeru Kohno, Kazuhiro Tsukamoto : A haplotype, *NAT2\*6A*, of the *N*-acetyltransferase 2 gene is an important biomarker for a risk of anti-tuberculosis drug-induced hepatotoxicity in Japanese patients with tuberculosis. World Journal of Gastroenterology, 2006.

#### B 邦文

##### (B-b) 総説

1. 小林 奨、宮崎義継：ポリコナゾール（ブイフェンド錠） クリニカルプラクティス 25:40-41, 2006.
2. 小林 奨、宮崎義継：透析患者における難治性感染症—最新の診断と治療 6) 深在性真菌症 カンジダ症、アスペルギルス症、クリプトコッカス症の診断と治療 臨床透析 22:195-201, 2006.

##### (B-c) 著書

1. 小林 奨：クリプトコックスの病原性は？ p42-43 深在性真菌症 Q&A 2006

### 【学会発表】

#### B 国内学会

##### (B-b) 一般講演

1. 田原尚子、小島三枝、樋口則英、小林 奨、塚元和弘：抗結核薬の副作用感受性遺伝子の同定 第23回日本薬学会九州支部大会（熊本）12/9, 2006.
2. 佐藤加代子、潮田瑞穂、大石裕樹、小林 奨、塚元和弘：日本人における炎症性腸疾患の疾患感受性遺伝子の同定 第23回日本薬学会九州支部大会（熊本）12/10, 2006.

### 【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	2編	（邦文）	1編
総説（欧文）	0編	（邦文）	7編
著書（欧文）	0編	（邦文）	8編

紀要	(欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許		0 件		